

薄れゆく歴史に危機感

文化財レスキューの想い



まつの ようこ
松野 陽子さん（市ノ後団地）

発災後から、木山地区などに足を運び、お地蔵様などにテープを張ったり、倒壊した歴史的建造物の一部がガレキと混同されないようにテープで区切ったりしてきました。

自分たちでもどうかしなければと思って、いた矢先、災害対応先進地から視察に来られた方々に、「残すべきものを残すためには、

解体などに紛れて失われる前に早急に取り掛かる必要がある」と言われ、文化財保護委員を務められていた方々を中心に、1月11日に「益城の歴史遺産を守る会」を立ち上げることになりました。

現在特に力を入れているのは、私の専門が建築なので、被災建物や解体予定の歴史的建造物の平面図を残すという取り組みです。大学や学術機関にも協力していただき、図面などを作成して記録として保管しています。文化財のレスキュー活動や記録、保管活動は、今やらなければ二度と後戻りすることができません。これからも力を入れて頑張っていきたいです。



▲蔵にあった長持の中から見つかった陣笠。表面は漆塗りと思われる

▼陣笠とともに見つかった装飾具。槍の先につける槍鞘か。



教材として現状を残す

地震の爪痕 地表断層を保存

町教育委員会では、これらの「生きた標本」を、今後震災を語り継ぐものとして、地元住民と協議しながら大切に

70㍻の高低差が生じています。

指定を受けたのは、塩井神社(杉堂境内に現れた長さ約4㍻の地表断層と福原地区の民有地に現れた約20㍻の地表断層。双方とも約

二度にわたる震度7という大きな揺れや余震の末、町のいたるところに亀裂が残されました。特に断層帯では、地表に大きなずれが出現しています。断層が地表に露出することは珍しいとされており、町では、日本活断層学会の要望もあり、特に必要と思われる二か所の地表断層について、町文化財保護委員会への諮問、答申を経て、町文化財に指定しました。

指定を受けたのは、塩井神社(杉堂境内に現れた長さ約4㍻の地表断層と福原地区の民有地に現れた約20㍻の地表断層。双方とも約70㍻の高低差が生じています。



▼町文化財に指定された、塩井神社境内の地表に現れた活断層

保存し、防災教育などに活用していく予定です。なお、最終的には国の天然記念物指定を目指しています。